

千葉商工会議所景気動向調査

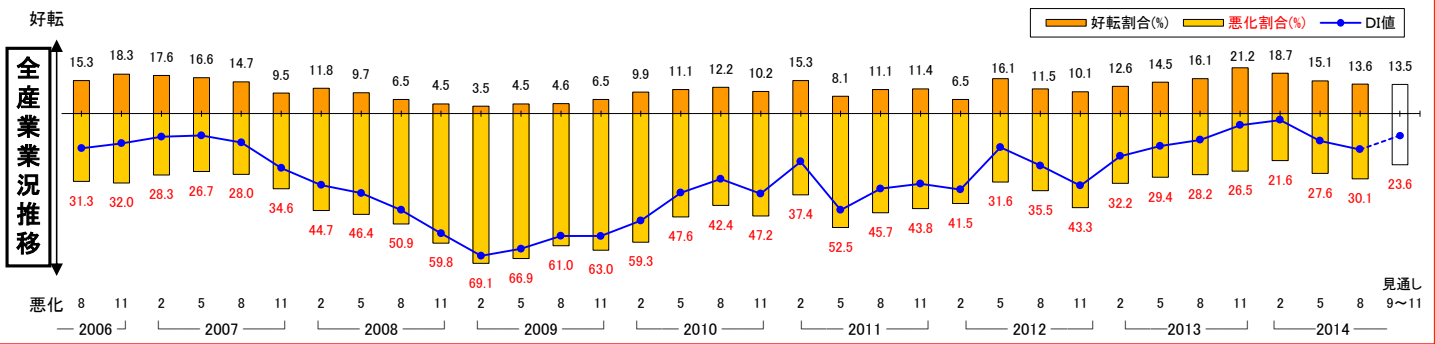
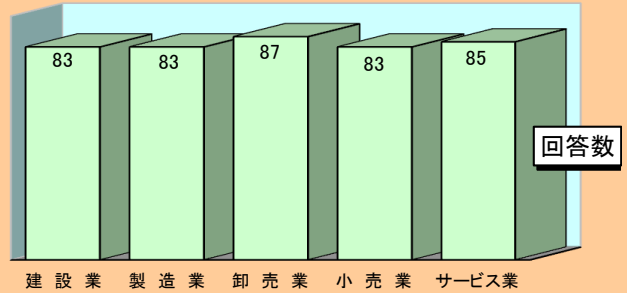
……平成26年8月期調査結果報告……

調査期間：平成26年8月11日(月)～8月21日(木)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 421社 回答率 84.2%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

8月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成26年5月、以下同じ)と比較して、小売業でほぼ横ばい、サービス業で上昇したものの、他の3業種で下降した結果、全産業合計DIは4.0ポイント下降して▲16.5となり、2期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月(9～11月、以下同じ)の先行き見通しは、サービス業を除く4業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より6.4ポイント上昇の▲10.1となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、建設業、製造業、卸売業で下降した結果、全産業合計DIは4.2ポイント下降して▲6.4となり、2期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業、製造業、小売業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より4.4ポイント上昇の▲2.0となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業、製造業、卸売業で下降した結果、全産業合計DIは6.6ポイント下降の▲22.4となり、2期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、サービス業を除く4業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より8.3ポイント上昇の▲14.1となっている。

全体を総括すると、消費増税前駆け込み需要の反動からの回復は見られず、景気感は2期連続で悪化した。なお、従業員DIは過去最高値を更新し、引き続き各業種で人手不足が発生の様相。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは13.3ポイント下降して▲8.4に、売上DIも12.3ポイント下降して▲1.2に、採算DIも24.2ポイント下降して▲20.5となった。業況DIと売上DIは3期連続、採算DIは2期ぶりの下降となり、業況DIにおいては7期ぶりにマイナス値へ転じた。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、深刻な人手不足により受注を減らさざるを得ない状況を訴える声が多数寄せられ、さらには大手ゼネコン等が好転した影響が地元企業に対してあまり見られず、「地元自治体発注工事において不調不落が多発」との声もあった。

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは5.4ポイント下降して▲12.2に、売上DIも9.1ポイント下降して0.0に、採算DIも12.8ポイント下降して▲17.3となった。業況DIは2期連続、売上DIは横ばいを挟んで7期ぶり、採算DIは4期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上

向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、人手不足で「人件費が増加」「外注に依存」等の声があった。また、ガソリン代や高速料金等の上昇が深刻な負担となっている旨の声も複数寄せられた。一方で「県外からの受注増」「東北は震災復興需要で活況」等の指摘もあった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは5.5ポイント下降して▲19.5に、売上DIも8.1ポイント下降して▲6.9に、採算DIも3.3ポイント下降して▲26.5となった。業況DI、売上DI、採算DIとも2期連続の下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、採算DIは現状より上向き、売上DIは横ばいとの見方になっている。

調査回答企業からは、消費増税後の影響に関して「価格転嫁が適正に行われていない」「新規受注件数が下がっている」「売上が減少」等厳しい状況を訴える声が多数寄せられ、平成27年度実施見込みの更なる税率引き上げを懸念する声も複数寄せられた。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは0.2ポイントと若干下降しながらもほぼ横ばいの▲41.5となったが、売上DIは6.8ポイント上昇して▲26.5に、採算DIも3.5ポイント上昇して▲36.2となった。業況DIは2期連続の下降、売上DI、採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、人手不足に関して「良い人材が大手へ就職してしまう」「人件費増が営業損益を悪化させる」等の指摘が寄せられた。また、猛暑の影響については、来客数の減少を指摘する声の一方で「空調機器の売上が好調」との声があった。

・サービス業

前回調査と比較して、業況DIは6.4ポイント上昇して▲1.1に、売上DIも3.7ポイント上昇して2.4に、採算DIも4.8ポイント上昇して▲11.7となった。業況DIは3期ぶり、売上DIと採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、消費増税の影響に関しては「それ程ない」との声の一方、じわじわと負担が増加している上での更なる税率引き上げは「致命的」といった旨の声も寄せられた。また、各方面での個人消費の落ち込みを指摘する声が複数あった。

【調査結果のポイント】 * 景気感は2期連続で悪化、消費増税前駆け込み需要の反動からの回復は見られず

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。
http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms_id=99

【全産業】

